

▲ 春期特別展示『あすか以前』

飛鳥資料館では、毎年、春と秋の2回にわたって特別展示をおこなっています。今年度、春の特別展示は、明日香村教育委員会、桜井市教育委員会、奈良教育大学の協力を得て、飛鳥地域の飛鳥時代以前の出土遺物を中心に「あすか以前」と題して、2002年4月23日～6月2日の会期で開催しました。また、この展覧会に伴い、平城宮跡発掘調査部の深澤芳樹による特別講演会「弥生時代の集落、森のムラ」を5月11日に当館の講堂にて開催しました。講演会は、多くの方にご来場いただき、大変盛況なものとなりました。

飛鳥地域は古墳時代の終末期から、ようやく成立しようとする日本という国の最初の首都として、日本史上に特別な意味を持つこととなります。『日本書紀』に書きとどめられた古代の都としての「飛鳥」と、都にかかわるさまざまな遺跡は、広く世に知られ注目を集めていますが、それ以前のこの土地の歴史については、あまり話題に取り上げられることもないというのが現状です。

今回の展示は、日本史の表舞台に登場する以前の、この地域の歴史的な変遷をたどり、縄文・弥生・古

墳各時代の飛鳥地域の遺跡・遺物の概要を広く一般に紹介しようと企画したものです。この展示によって、地理的にも、経済的にも、有利な立場にあったとは言いがたい土地、この飛鳥がどのようにして、この国の政治・文化の中樞になっていったのかを、各人があらためて見直す契機になれば幸いと考えております。

(飛鳥資料館)